

令和3年11月11日

「福祉用具の日」20周年記念式典メッセージ

公明党副代表

衆議院議員 古屋範子

本日は、「福祉用具の日」20周年記念式典が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の中、福祉用具の調査研究事業、会員研修事業、福祉用具普及事業を積極的に行ってこられた協会の皆さまに心より感謝申し上げます。

一般社団法人日本福祉用具供給協会は、福祉用具供給事業者に関する唯一の広域社団法人であります。平成8年の以来、常に進化を遂げている福祉用具の健全な発展を推進してこられた関係者の皆様に深く敬意を表します。

高齢化の進展や、ノーマライゼーションの考えが普及していく中、必要とする誰もが福祉用具を利用しやすい環境をつくっていくことが、今まさに求められています。

貴協会は、多くの方々に福祉用具を知っていただき、社会全体が福祉用具を身近に感じられるよう、「福祉用具の日」を定め、20年にわたり福祉用具の普及促進を強力に進めてこられましたことに深く感謝申し上げます。今後さまざまな立場の方々と連携して活動を進め、運動の輪を広げていかれる取り組みを期待しております。

協会の皆様と公明党とは長きにわたり連携し意見交換を重ねてまいりました。財政制度等審議会で俎上に上った「福祉用具貸与から一部販売へ移行すべきである」との指摘に対し、私は2月の予算委員会分科会において、「福祉用具は適宜適切な利用が重要、利用者の安全性の確保、適切な保険給付について慎重な利用が必要である」と追及し引き続き検討されることとなりました。

高齢者や障害者ができる限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるため福祉用具の役割は非常に重要であります。さらに、積極的に社会参加ができるよう今後も貴会との意見交換を積み重ね、利用者にとって選択しやすい仕組み、必要な方に適切な価格で福祉用具を適用できる制度を皆様とともに構築してまいりたいと思います。

結びに、貴協会の益々のご発展とご繁栄、併せて会員の皆さま方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。